

外国は知らないことではいっばいだ!

F「今回は、外国特集です! さあ、海外について話しましょう!」
 M「私、外国行ったことない」
 T「私も日本から出たことはありません」
 M「はい、しゅーりょー。さ、仕事、仕事」
 F「えー!? もうちょっとお話ししましょうよう。行ったことなくても行きたい国とかありますよね?」
 T「……えーと、私は、英語の授業で、行きたいところを聞かれたとき、なんとなくパリって答えてました」
 M「パリ! ヴェルサイユ宮殿!」
 T「あ、いえ、特に何かしたいっていうわけじゃなかったんですが……何となく」
 F「でも、いいですよ〜、おしゃれな街って感じて」
 M「外国に行く理由って、たとえば何かがあるのかしらね。買い物とか?」
 F「聖地巡礼、みたいにテレビで見たりマンガで読んだりしたものを実際に見たっていうのもあるんじゃないですか?」
 M「それなら私は、マチュピチュとか見たいわね」
 T「廃墟……ロマンを感じますね」
 F「ギリシャのパルテノン神殿とかもいいですよ。神話を感じる」
 M「神話といえばさー、ノアの方舟ってたまに見つかるよね」



……
 F「え、今、ちょっと時間止まりましたよ。見つかるんですか?」
 M「あれ、ニュースになってなかったっけ? 木の破片みたいなのが見つかってそれがノアの方舟の一部なんじゃないかって話題になったり」
 T「ググってみました。たしかにそんなニュースがあるみたいですね」
 M「ちょっと見てみたくない?」
 F「世界にはまだまだ知らないことがたくさんありますね!」
 M「あ、強引にまとめて入ったわね」
 T「いつか見てみたいので……メモしました」
 F「今回は本を読みましょう!」



←QR コードでも
アクセスできます

Instagram公開中 ここにアクセスしてね★
<https://www.instagram.com/hondarake55>

ホンダラケ

2022. 10.1

遠からん者は本にも読め

ちかくばよってめにもみよー、ができるその日まで。
 本で外国を覗いてみましょう。

『JK、インドで常識ぶっ壊される』

熊谷はるか/著 河出書房新社 2021年

父親の転勤で外国に引っ越す? どこ? アメリカ? フランス? え、インド!? ターバンに髭のおじさんの? カレーの? 数学の? 高校入学を目前にインドへ引っ越した著者の体験記。

現地に到着した日から、今までの常識は粉々。宗教が生活になじんだ人々、肌の色に悩む同級生、メイドや運転手のいる生活、スラムにいる子どもたち……。著者の喜びと戸惑い、そして、そこから考えたこと。てらいなく綴られた文章は、私たちの常識をぶっ壊して、新しい知見をくれます。



292.5/21

ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のYA(ヤングアダルト)コーナーでご覧いただけます。

2か月に1度、年6回発行予定です。

ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。YAコーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

テーマは「ホラー」

表紙を見ただけでも怖い。身の毛もよだつ、秋のホラー特集です。

『サイレントヒル』

ポーラ・エッジウッド／著 牧野修／編訳

KADOKAWA/角川ホラー文庫

2006年刊

全世界で840万本販売されたゲーム「サイレントヒル」を原作とした作品です。

この話はホラーの描写がとて強いのに、その状況下に置かれる主人公達の心情描写がとてわかりやすくなっています。なので、原作好きにももちろんオススメしたいですが、ゲームを敬遠してしまう人にぜひ読んでいただきたい一冊です。



F/マキ

P.N. 霧牢 (高校2年生)

「こんな本、棚から見つけました」のコーナー

このコーナーでは、スタッフが棚を見て“再発見”をした本を紹介します

『かならずお返事書くからね』

ケイトリン・アリフィレンカ、マーティン・ギャンダ／著

リズ・ウェルチ／編 大浦千鶴子／訳 PHP 研究所 2018年刊

アメリカに住む少女、ケイトリンは学校の課題として外国に住む子と文通をすることになります。今までに聞いたこともなかった未知の国「ジンバブエ」に興味を持ち、ワクワクして手紙を書き始めます。ケイトリンからの手紙を受け取ったのは、アフリカ・ジンバブエに住むマーティン。貧しい家庭に生まれた彼は、手紙を通してケイトリンとの生活の違いに驚きながらも、なんとか文通を続けていましたが……

2人はいつしかお互いをとても大切な親友だと思うようになり、互いを思いやる心で支え合い、その行動は人生を大きく変えていきます。本当にあった、温かいお話です。



289.3/アリ

新着図書 Pick Up

『エモい古語辞典』

堀越英美／著 海島千本/イラスト

2022年刊 朝日出版社



814.6/22

「エモい」なる言葉が世の中に流行りだしたものの、もはや使いどころがわからぬ世代の人もいるのです。「エモい」とは言葉で表現できないほどの心の高まりを指すみたいですが、遙か古代の日本の言葉を紐解けば、エモい言葉であふれてる！水晶を「玻璃」と言いかえて、間を「あわい」と言ってみたり、「花雨」「雪解傘」とかしたためたお手紙に使ったりしたらお洒落です。「迦陵頻伽」はどこに使ったら良いかわからないけど、ページをめくるたびにため息の出るような美しい言葉に出会えますよ♪

難しいと思われているけれど、実は面白い名作があるから読んでみてほしいんです。

『アラビアン・ナイト』

前嶋信次／訳 1966年刊

平凡社 東洋文庫

929.7/アラ

『アラビアンナイト』

大場正史／訳 2013年刊

KADOKAWA/角川ソフィア文庫

バートン版 千夜一夜物語拾遺』

ディズニー映画で有名なあの話なら皆さんよくご存じのはず。だけど、本来は絶世の美女・シェラザードが処刑を逃れるために、怖い王様に千夜にわたって語り続けた物語の中の一つなんです。図書館の「アラビアンナイト」はシェラザードが語ったおはなしだけを抜粋して収録されたものが多いですが、東洋文庫版はシェラザードの千夜の語りが入っています。異国の夜を楽しみながら読破してみてください！ちなみに全20巻です。



929.7/オオ